

行政視察報告書

令和7年 2月 12日

長浜市議会議長 高山 亨 様

長浜市議会議員

北川 陽大

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 令和6年度 つなぐ長浜 行政視察
2. 視察期間 令和7年2月12日（水）
3. 視察場所及び目的
①東京都東大和市
「どろんこ保育園」

4. 調査内容感想等

・視察の目的

東大和市 どろんこ保育園

社会福祉法人どろんこ会による『どろんこ保育園』の視察

保育所と児童発達支援センターを併設させて、子ども時代から共有、共存させる
育児。

・視察の内容

保育所と児童発達支援センターを併設させることでのメリット。

また、重度障がいや発達支援の児童が共に生活することによる社会訓練、機能訓練を並行して行うことを心掛けている。そこで、保育士と発達支援センターの療

長 浜 市 議 会

育士も共に働いている。保育所と児童発達支援センターでそれぞれ別のところに通う必要がない。

どろんこ保育園を展開する社会福祉法人どろんこ会自体が、もともと1992年に進学塾を開設している。その進学塾のコンセプトが、進学希望者のみならず、不登校や障がいのある子どもたちを積極的に受け入れる方針であったらしく、その方針を発展させて保育施設と療育施設を展開した。

その中でも最も大切にしているのが、障がいがある子も、障がいがない子も同じ仲間として学ぶインクルーシブ保育である。

現在では、その園の卒業した児童が成長した時に向けて農業を中心とした就労支援も行っており、法人が展開する農園で勤務に従事もできる。

認定こども園、認可保育園、学童保育、発達支援、就労支援、農園従事と展開している。

つまり、子どもたちの成長に応じて、各施設が点と点から線につながるようになっている。

国が推奨しているインクルーシブ保育をいち早く取り入れているのが特徴であり、例えば一般保育施設と療育施設の建物には壁がなく子供たちは自由に行き来できる。また、年齢も関係なく共に学び合う。つまり、障がいの有る無し、年齢は関係なく、子どもたちが幼いころからコミュニケーションがとれる工夫をされている。

また、車イスが必須の障がい児や、ダウン症児も他の児童と共に、稲刈りやお遊

戯会など、各種のアクティビティに参加することで自然と子どもたち同士の助け合いが見られる。

「みんなが同じではない、人にはそれぞれ特性があり、どんな人も排除されない社会」を構築するための人間を育成することを目的とされている。

また、保育士は子どもたちに指導するわけではなく、子どもたちが施設の生活の中で障がいのある児童を補助する行動を自然に行っている。

・長浜市でどのように生かせるのか

東大和市は公立の発達支援センターが老朽化のため、建て替えが決まっていた。

そこで、建て替えと共に保育施設と発達支援センターを併設した施設にし、民営化することとした。その中で、市が公募した中で社会福祉法人どろんこ会が選ばれた。今のどろんこ保育園は旧発達支援センターの場所を建て替えたものである。市の意向は踏まえながらも、施設の設計内容や教育方針などは法人に任されている。

民営化と共に、発達支援センターと保育施設を併設するインクルーシブ保育を同時に行っており、行政も効率的な選択をしている。

今後、長浜市も少子化と共に各施設の老朽化、建て替えが控えている。各保育・療育施設などの併設と共に、ノウハウのはる運営能力の高い法人による民営化を検討する事例になると考える。